

## 華国鋒総理主催セプシヨンにおける挨拶

（昭和五十五年五月二十九日 在京中国大使館）

華国鋒総理閣下、谷牧副総理閣下、黃華外交部長閣下、符浩大使閣下、「」在席の中国の友人の皆さま、  
今夕は、「」のよろに心暖まる」歓待にあずかり誠にありがとうございます。日本側の出席者を代表して厚く  
お礼申し上げます。

華国鋒閣下、今日、日中両国の間においては、経済協力・文化交流等多くの局面において多彩な協力関  
係が進展し、ひとひとの往来もひんぱんになつてきました。誠に「」同慶にたえません。この協力関係を一  
層発展充実させるため、私は、今夕の場をお借りしてそのような両国国民の共同作業の場におけるそれぞ  
れの国民性のもつ意味について考えてみたいと思います。

日中両国の国民性は、ともに自然を愛し、文化や人間関係を重んずる点などにおいて共通するところが  
少なくありません。

しかし一方、広大にして大陸的な環境・風土の中に育つた中国人と、周囲を海にめぐらされた狭小な国  
土に生きてきた日本人とは、自ずから人間形成の境遇を異にし、異なる国民性をつくり上げてきたと言  
うことができます。

私は、この国民性の違いは、日中両国民の交流を阻害するものとは思いません。むしろ、私は、日中両国の国民性は、それぞれ一方が他の足りざるところを補うところの相互補完の関係をつくり上げることになるのではないかと考えるのであります。すなわち、日本人は、中国人の雄大な構想力、ねばり強い忍耐力などその優れた長所から多くを学ぶことができます。

また、中国のかたがたは、明治維新後、日本人が懸命になし遂げてきた近代化過程に示した工夫と精神を参考にされることが多いのではないかと信じます。こうして両国国民がお互いの国民性から相互に学び合ひ、新たな理解と尊敬を生み出すことにより、より一層深めて血の通つた交流が図られるようになるのではないかでしょうか。

日中間に存在する経済的補完性については多くの人々が口にするところがありますが、私は、日中間のそのような面に加え、さらに、以上申し述べたような両国の国民性の文化的側面にも目を向けたいと思つてあります。

華總理閣下、閣下は、中国の首脳として、初めて日本を訪問され、「滞在中、極めて精力的に多くの日本人と接せられました。貴国の近代化にかける閣下のひたむきな情熱は、強い感動をもつて迎えられました。春の海のような閣下の穏やかな性格は、多くの日本人を魅了いたしました。閣下は、今回の日本」訪問を通じて数限りない日本国民の友誼と信頼の情を得られ、それをたずさえて帰国されることになります。私は、閣下の収められた成果に深甚な敬意を払うとともに、今回の訪問が両国間の国民性の理解の増進にとって、大きなステップになったことを心から喜ぶものであります。

華總理閣下、私は、今夕この機会に、中国の親しい友人の皆さま方とひとときの歓をともにしながら、改めて日中両国間の長きにわたる歴史に思いをはせております。かつて郭沫若先生は「」のよつた両国の関係を「深々たる情誼一千載、茫茫たる北海も一衣帶水なり」と謳いあげられました。

華總理とその「」一行は明日関西に向かって出発になり、週末は、古都・京都の風情を愛でられるところがつております。同地でも閣下は、日中一千年の往来の歴史にふれられ、なかんずく、日本が古来より極めて多くの面で中国に負つてきただけとされたりましよう。」」一行の日本滞在が極めて限られた日数であることが残念でありますが、晩春の古都の風情を十分楽しむれるよう期待しております。

それでは最後に、主人の盃をお借りして

中華人民共和国の一層の繁栄のために、

日中両国間の平和友好関係の発展のために、

華國鋒總理閣下の「」健康のために、

「」列席の皆さまの「」健康のために、

乾杯したいと思います。

乾杯。

（参考）中国最高首脳の来日は日中関係史上初めてのことであり、日中新時代を象徴するものとなつた。

なお、大平總理の外国要人との公式行事における「」発言は「」これが最後となつた。